

まんのう町教育委員会だより

爽風

そうふう

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 48

令和7年【2025】

4月1日 発行



特集 体験活動のすすめ

Contents

P.6～7 園・学校ウォッチング
琴南小学校・高篠こども園

P.8 次年度に向けて
P.9 シリーズ「声」

P.10 ホットニュース
P.11 関係機関から

体験活動のすすめ

直接体験の不足

近年、私たちを取り巻く環境は、加速度的に変化しています。そんな中、人間関係をうまく構築できない、規範意識が低い、ささいなことでも感情を抑えられないなど、青少年には様々な課題が指摘されています。これらに共通しているのは、「新しい環境や思い通りにならない局面への対応力や耐性」「周囲と適切な人間関係を形成する力」「努力して課題を解決していくこととする意欲や自信」などの欠如だ、といわれます。

こういった課題を解決するための一つのアプローチとして有効とされているのが、体験活動です。

体験には、直接対象に触れたりかわったりする「直接体験」のほか、写真やビデオなどを通して見たり聞いたりする「間接体験」、模型やシミュレーションなどを通してかわる「疑似体験」があります。情報化社会の進展により、現代の子どもの間接体験や疑似体験は、飛躍的に増大しています。一方で、直接体験は衰退の一途をたどっているのです。

「体験活動」とは、何らかの学習が行われることを目的として、体験する者に対して意図的・計画的に提供される体験のことをいいますが、今、子どもたちに必要なのは、ヒト・モノや実社会と実際に触れてかわり合う、「直接体験」の活動なのです。

体験活動は人づくりの原点

中央教育審議会は、平成25年1月『今後の青少年の体験活動の推進について』（答申）の中で、現代の子どもたちの体験活動に関して、次のような問題提起をしています。

○今の子どもたちをめぐると環境は、心や体を鍛えるための負担がかからない、いわば「無重力状態」ではないか。
○便利・快適・安全な現代社会においては、青少年は全力を出す「スイッチ」を入れるチャンスを失っているのではないか。

○リスクを恐れるあまり、周りの大人が過保護になってしまい、必要な体験活動の機会を奪っている面もある。
○都市化、少子化、電子メディアの普及、地域とのつながりの希薄化といった社会の変化などにより、これまで身近にあった遊びや体験の場や「本物」を見る機会が少なくなり、そのノウハウも継承されなくなっているのではないか。

○保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、青少年の体験活動の機会に「体験格差」が生じているとの指摘もある。

そして、「体験活動は人づくりの“原点”である」との認識の下、教育活動の一環として、体験活動の機会を意図的・計画的に創出することが求められている、としています。

学校での体験活動

さらに、「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」が出した『論点整理』（令和6年9月18日付）においても、「手軽に回答を得られるデジタル時代であるからこそ、人間中心の発想で生成AI等を使いこなしていくためにも、（中略）体験活動の充実をはじめとして、デジタルとリアルのバランスを取りながら資質・能力の育成に取り組むことに留意が必要」としています。

このような考えのもと、各学校においては多様な体験活動に取り組んでいます。

体験の中で、子どもたちが自分を取り巻く世界の何を見、そこから何を感じるかが重要です。五感を働かせ、肌で感じたことをもとに考え、工夫したり創造したりすることから、また、時には失敗を糧として乗り越えていくことから、「コミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、創造力、変化に対応する力、異なる他者と協働する力など、これからの社会をたくましく生きていくための基礎となる力が育まれていくのです。

次のページでは、今、各学校がどのような体験活動に取り組んでいるか、その具体的な姿を紹介していきます。

かりんの収穫：仲南小6年生



環境学習プログラム／4年生
(国営讃岐まんのう公園)



かりんの収穫／3年生
(町内農園)



ソフトクリーム作り体験／6年生
(キザニア甲子園)



ふれあいじんけんフェスタにて



中学生の
ボランティア活動

公民館祭りにて



中学生の
職場体験学習



集団宿泊学習／5年生
(ホッ!とステイまんのう)



集団宿泊学習／5年生
(屋島少年自然の家)

自然体験(キャンプ、登山、川遊び、ウインタースポーツなど)では主に、
自尊心や外向性に良い影響が見られるようです。

社会体験(農業体験、職業体験、ボランティア)では主に、
向学校的な意識に良い影響が見られるようです。

文化的体験(動植物園・博物館・美術館見学、音楽・演劇鑑賞、スポーツ観戦など)では、
全て(自尊心、外向性、向学校的な意識、精神的回復力)に
良い影響が見られるようです。



緑米の栽培／5年生



昔の道具体験／3・4年生
(詫間町民俗資料館)



博物館見学／3・4年生
(愛媛県総合科学博物館)



動物園見学／1・2年生
(のいち動物公園)



美術館見学／5年生
(大塚国際美術館)



水族館見学／1・2年生
(四国水族館)



屏東大学(台湾)との交流／中学生



科学体験教室／5・6年生
(こども未来夢基金事業)

体験活動がもたらす良い影響

小学生の頃に体験活動(自然体験、社会体験、文化的体験)などをよくしていた子どもは、家庭の環境にかかわらず、高校生の時に次の項目の得点が高くなる傾向が見られました。

- ◆ **自尊心**(自分に対して肯定的、自分に満足している、など)
- ◆ **外向性**(自分を活発だと思う)
- ◆ **向学校的な意識**(勉強・授業が楽しい)
- ◆ **精神的な回復力**(新しいことに興味を持つ、自分の感情を調整する、将来に対して前向き、など)

また、小学生の頃に異年齢の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだりした経験のある高校生にも、同様の傾向が見られました。

(参考：文部科学省『令和2年度青少年の体験活動に関する調査研究報告パンフレット(概要)』)



このほかにも、**読書、遊び、お手伝い、スポーツ、部活動、地域の行事など**、子どもたちの成長に良い影響を及ぼすと言われる活動はたくさんあります。経験した内容によって、影響が見られる意識や時期が異なることから、多様な経験が大切であるとも言われています。

琴南小学校では、地域を大切にする心や主体的な学び合い、自分や友だちのよさを見つたり認めたりしようとする態度、自ら考えて行動する意欲などを大切にしながら、教育活動に取り組んでいます。

自分の特技を全校生の前で発表する スマイルパーティー

例年12月初旬に行うなかよし集会（人権集会）のプログラムに、昨年度からスマイルパーティー（自慢発表会）を取り入れました。パーティーは、児童会が中心となって計画し、自分の特技やがんばりを全校児童の前で発表する場として開催しています。出演する子どもたちが、みんなの前で特技などを発表することにより自信を深めたり、発表を鑑賞する子どもたちが、友だちの新たなよさを見つけたりするのを目的としています。

本年度は、スマイルパーティーをなかよし集会の時だけでなく、昼休みの時間も利用して開催しました。子どもたちが自分のよさを実感したり、互いに認め合ったりする機会を増やすためです。7月の昼休みに開催した第1回パーティーには、10組が出演し、こま回し、ピアノ演奏、クイズ、あやとり、大縄跳び、イラスト、マジック、ダンスを発表しました。



自ら考え 行動できる子どもに

琴南小学校



ティールを盛り上げる大きな力になりました。これからも、みんなで作る、みんなが一つになるスマイルパーティーを通して、さらに子ども同士が認め合ったり、心のつながりが強くなるようにして行きたいと思っています。

より自分の事として取り組める そば作り体験に

例年、3年生から6年生が、8月下旬にそばの種まき、秋には土寄せ、刈り取り、脱穀、製粉、そば打ち、そばの試食（試食には、1・2年生も加わる）を行っています。この一連の過程では、地域のそば作りの指導者の方に大変お世話になっています。本年度の試食会では、昨年度まで保護者ボランティアが行っていた、ねぎやかやくの準備、湯がき、出汁つぎ、かやくの盛付けなども上級生が行いました。



このようにしたこと、子どもたちが指導者や来賓の方をもてなし、感謝の気持ちを伝えるという意識をしっかりともち、より主体的に取り組めるようになりました。

来年度も、子どもたちが自ら考えて行動する場が増えるよう、また、琴南小学校が、子どもたちにとってより居心地のよい場所となるよう、教育活動の進め方をよりよくしていきたいと思っています。



プロジェクトチーム（ダンパー紹介）



園庭の像

また、園庭にはたくさんのお花があります。春は桜や藤の花が咲き誇り、夏になるとそれらが涼しい陰を作ります。秋にはアメリカフウなどの落ち葉で地面が絨毯のように敷き詰められ、冬になると霜で草花が真っ白に輝くなど、四季を通していろいろな景色を見せてくれます。



アメリカフウの絨毯（気持ちいい！）

1月のとても寒い朝。3歳児クラスの子どもたちが小川に張った氷を発見し、夢中になって集めていました。それを見つけた1歳児クラスの子どもたちが「なんだろ」というように駆けてきて、先生としばらく眺めていましたが、そのうちに「楽しそう」と思ったのでしよう。スコップを借りたり取って来たりして、同じように氷を集め始めました。とれたての氷を手にとって思わず「冷たっ」とびっくりしたり、氷の中に入っていた落ち葉を見つけて「葉っぱ」とおもしろがったりしています。長いスコップではなかなか思うように氷は集められませんでした。それでも真剣な眼差しで何度も挑戦していました。違う日には、1歳児クラスの子どもたちが砂場で遊んでいると、5歳児クラスの子どもたちがバケ



小川の氷をスコップで

遊びを通して育つ子どもとともに 長炭こども園

3学期、園庭では5歳児クラスの子どもたちが、毎日縄跳び遊びに取り組み姿が見られます。友だちが跳べるようになると跳んだ回数や跳び方が気になって、自分もやってみようという気持ちが徐々クラスの中に広がっています。す「難しいことにも挑戦します」が合言葉となっていて、夢中になりすぎて筋肉痛になる子もいます。小学1年生との交流で縄跳びを見せてもらったことがきっかけとなり、「すごい」「僕よりいっばい跳べていた」「交差跳びもしていた」など、もっと跳べるようになりたいという思いがさらに強くなりました。「僕は跳べない」と言っていた子が



もっと跳べるようになりたい！



花壇には、いろいろな場所から次々とチューリップの芽がはじめて、もうすぐ春が来ることを知らせています。こども園で培った目に見えない力が礎となり、次年度からの新たな出会いの中で、それぞれの子どもたちが自分らしく色とりどりの花を咲かせてくれることを願って保育に努めています。



今日の記録は...



も、「1年生の〇〇君みたいに跳べるようになりたい」と、次の日から縄跳び遊びをするようになりました。ゆっくりゆっくりですが続けて跳べるようになっていくと、近くを通る先生を見つけては「数えて」と声を掛けています。その頃、子どもからの提案で、自分の記録がわかるようにホワイトボードを担任の先生に出してもらいました。そして、記録が更新される度に跳んだ数を自分で書き入れています。先生がホワイトボードの上の方に0から9までの数字を小さく書いてくれているので、これまで数字に興味があつた子も、それを見ながら自分で書くようになってきました。たくさん跳べるようになった喜びや、ホワイトボードに数字を書くことのわくわく感が、もっと跳びたいという気持ちにさせてくれます。



第34回 教員1年目を終えて!

昨年4月に教員として正式採用され、初任者として教員生活をスタートした先生方がいます。慣れない環境の中でも、子どもたちとともに楽しいことや苦しいことを経験しながら成長した1年目が終わりました。そんな先生方の声を聞きました。

試行錯誤し、トライし続けた1年間

今、小学校教員としての1年目を終えようとしています。この1年を振り返ると多くの学びがあり、それを通して成長できたと思います。何より子どもたちとの出会いに感謝の気持ちでいっぱい。子どもたちと向き合う日々は想像以上に刺激的でした。時には困難もありましたが、それでもこの経験を通じて、教員としての責任とやりがいを感じることができました。

最初は学級経営や授業の進め方を考えるだけで精一杯でした。個性あふれる子どもたち一人ひとりに対し、どのようにサポートすればよいのか迷うことも多くありました。それでも周りの先生方に相談に乗っていただいたり、いろいろ試行錯誤したりしながらトライし続けました。すると、1学期の終わり頃のある日、授業後はいつもすぐに外へ飛び出して行く子どもが、私のそばに来て「先生との授業は、分かりやすくて楽しいから好き」と言ってくれました。その時のことは今でも鮮明に覚えています。未熟な自分が子どもたちの学びを少しでも支えることができているのだと実感し、その後の大きな励みとなりました。

まだまだ未熟な部分が多く、学ぶべきことがたくさんありますが、この1年を通じて教員の仕事の奥深さと喜びを知ることができました。

来年度は、さらに学びトライしていくことで、子どもたち一人ひとりに寄り添った教育を実践していきたいと思っています。そして、教員として成長し続け、子どもたちの未来を共に創る存在でありたいと強く思っています。



長炭小学校 教諭 古田 聖奈

「やってみたいー!」と一緒に楽しみながら

1歳児「ゆり組」の担任になり、早いもので間もなく1年が経とうとしています。4月に出会った子どもたちは、大好きな家族と離れるのが不安で泣いていました。どうしたら安心して登園してくれるのか、初任者としての1年目は、心配な気持ちで始まりました。子どもたちとコミュニケーションをどのように取ればいいのか、子どもたちが私のことを受け入れてくれるのか心配なことがいっぱいでした。しかし、抱っこをすると泣き止み玩具に興味を示します。そして、次第にかわいい笑顔を見せてくれるようになりました。心配はすくなくなってきました。



冬、子どもたちと野菜スタンプを押して遊びました。大根やキャベツ、レモンコン、白菜などの冬野菜を子どもたちに見せると、気になった野菜をちょんちょんと指で触ったり、持ち上げて「おもい!」と言ったり、鼻を近づけてくんくん匂いを嗅いだりして、野菜に興味津々でした。その後の野菜スタンプでは、画用紙にスタンプを押して遊ぶだけでなく、手の平に押し、レモンコンの穴を覗いてみたり、野菜を積んでみたり、一人ひとりが思い思いに違った楽しみ方をしていました。子どもたちのやってみたい気持ちを受け入れて見守ることで、子どもの数だけ遊び方が生まれるのだと知りました。

この1年間、大変なことや悩むこともたくさんありましたが、それ以上に子どもたちと過ごす日々は楽しく、子どもたちの成長を間近で見られることへの喜びを感じました。毎日元気をくれる子どもたちとのかけがえのない経験を今後に生かし、子どもたちのやってみたい気持ちに寄り添い、一緒に楽しむことができる保育者になりたいです。

満濃南こども園 保育教諭 秀石 莉子

次年度に向けて

児童会・生徒会 役員選挙

小・中学校では、12月から2月にかけて児童会・生徒会役員選挙が行われました。どんな学校にしたいのか、そのためにどんなことをがんばっていくのかを全校生が真剣に考える機会となりました。



演説会



立候補者が学校や全校生への思いを訴えました

投票



本物の記載台や投票箱を使って実施する学校もありました

任命式



校長先生から任命書が授与されました

引継ぎ式



旧役員から新役員へ励ましの言葉とともに、役員バッチを渡しました



園長教育懇談会 (R6.12.18)



テーマ

保育者一人一人が主体的に
生き生きと保育に取り組める園づくり
～保育の質の向上をめざして～

毎年、教育研究所主催により、園長・校長を対象に教育懇談会を実施しています。園長・校長、教育委員、事務局職員が参加し、次年度の町内の教育・保育のさらなる充実に向けて、語り合います。

園長・校長は、互いに経営の悩みや課題を出し合い、他の園や学校の取組から、参考になる点を取り入れていきます。また、教育委員から率直な意見が聞ける場としても、たいへん貴重です。

校長教育懇談会 (R7.1.30)



テーマ

働き方改革とともに進める教員育成
～情熱をもち、やりがいを感じられる仕事へ～



A

1 補導活動

学校、PTA、婦人会、地域安全推進委員、保護司、商工会、駐在所員、少年補導職員等の皆様の協力を得ています。早朝、昼間、薄暮、夜間に町内を巡回し、子どもたちの非行の未然防止に努めています。

Q

どんなことをしているの？

A

「らいむ」は、「来る夢」という漢字が当てられています。子どもたちが自らの力で、自らの明日を切り拓き、自分の描いた夢に近づく過程をイメージして命名されました。

Q

なぜ「らいむ」と呼ばれるの？



「小さな親切」運動
まんのう町 支部大会

3 相談活動

非行・いじめなどの相談を受け、相談者の立場に立つてともに考えます。

4 広報・啓発活動

活動状況の報告や情報提供のために、年2回「育成だより」を発行しています。

5 環境浄化活動

町内4か所の「白ボスト」から、定期的に回収をしています。



町内にある白ボスト



2 「小さな親切」運動

身の回りにおける親切を発見し、その行為を認め賞賛するために、各学校から推薦された子どもたちに、県本部から届いた「小さな親切実行章」を渡しています。

また、夏休みに子どもたちが書いた「小さな親切」作文をまんのう町支部が独自に審査し、優秀作品を表彰しています。

広報車の窓から



先日こんな印象深いことがありました。ある学校の近くで、決まった時刻にいつも一人で登校している女の子を見かけます。そのたびに、マイクで「おはようございます」と呼びかけますが、前を見たままとこと歩いて、何の反応もありません。次の月もその次の月も同じです。

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」とマイクで呼びかけると、ほとんどの子どもたちが会釈を返してくれます。中には大きな声で「おはようございます」「さようなら」と返事をしてくれる子どももいます。大変ありがたく、とてもさわやかな気持ちにさせてもらっています。

「おはようございます」といつものように呼びかけると、こちらを見ながら、女の子の頭が少し前に傾いたのを見ました。「えっ、今のは確かに会釈だよな」。ほんのちよっぴり変化したこの行動は、彼女にとって今できる精いっぱいの反応だと察しました。私は、心の中で「ありがとう」と思いながら、「あなたにとって今日も楽しい学校生活になりますように」と願わずにはいられませんでした。



総合教育会議 (R7.2.7)



平成27年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会制度が新しくなりました。これに伴い新設された「総合教育会議」が、今年度も開催されました。

今回の総合教育会議では、町教育振興基本計画、こども園及び学校適正規模・適正配置の検討準備、中学校部活動の地域移行などについて、活発に協議がなされました。

教育研究所研修会

幼小連携・接続研修会 R7.1.9 (仲南支所)



各校区ごとに、2学期を中心に行った生活科授業の成果と課題について、小学校とこども園の教員が話し合い、今後もさらに連携・接続を進めるための方法を考えました。話し合いを通して、教員の相互理解が深まり、「地域の子どもたちを共に育てる仲間である」という意識が高まりました。

デジタル化推進部会研修会 R7.1.23 (満濃南小)



一人1台のタブレットを有効に活用するために、家庭への持ち帰りの実施や校務のデジタル化について、各校の取り組みを話し合いました。その後、県教育委員会義務教育課教育情報化推進室の中筋修指導主事から「みんなで考える教育DXのポイント」の演題で講話を聞きました。中学校で一緒に学ぶことになる子どもたちがスムーズに活用できるように、小学校間でも情報交換して取り組んでいこうと共通理解しました。

第7回 MIEA英語朗読コンテスト

(R7.1.11：四条公民館)

※MIEA：まんのう町国際交流協会

今年で7回目を迎えたこの英語朗読コンテストは、あらかじめ提示された課題の英文を3分以内で朗読し、その発音や表現力を競うものです。今年は町内の小学校から13名(4年生3名、5年生5名、6年生5名)が参加し、練習の成果を披露しました。

今年の課題は、“Storks flying in the sky of Manno”(まんのうの空を舞うコウノトリ)でした。

「昨年、昨年と、琴南地区にコウノトリが巣を作りヒナが誕生しました。コウノトリは自然が豊かな場所を好みます。私たちは、町の豊かな自然に誇りをもち、コウノトリと人々が共生できる町づくりを目指していきたい」という内容です。

審査の結果、右記の2名が優秀賞に選ばれました。



優秀賞

6年 高木 美空(四条小)
6年 松浦 龍也(四条小)





琴南小学校

編集後記

キツネ

まど・みちお

山おくのキツネは
真夜中になるとよく野原にでて
ひとりお月さんを見あげる
三角の顔をかしげて
ときどき きんいろの咳をして…

待っていたようにお月さんも
キツネを見おろされる
お前たちもむかしは
どこにでもいたのになあ…

日本中から
私を見上げてくれたのになあ…と

(『まど・みちお全詩集』理論社)より

まど・みちおさんの詩は温かくて、ユーモアがあって、誰にでも分かる平易な言葉でありながら、そこには深い意味が込められていて…。その魅力は、どれだけ言葉を並べても言い尽くせません。きりん「だれがつけたの？すずがなるような ほしがふるような 日曜の朝があけたような名まえを」と問かける詩も。その瑞々しい感性に

触れるたび、心が洗われるように感じます。

まどさんは、すべての生き物を温かく見つめます。小さなアリに「こっちは入れ物だけがほかでかくって」と申し訳なさを伝える詩、しろさぎには「目が吹雪の中のあかりのようで、あたたかそうね」と語りかける詩…。どんないのちも愛情をもってまっすぐ見つめるそのまなざしは、「人も自然も物もみんな同じ」という揺るぎない世界観に支えられているのです。

このような感性は、どのようにして育まれていったのでしょうか。

ある朝目覚めると、家族の姿がなかった…まどさんは5歳の時、祖父母のもとに一人置き去りにされました。その衝撃は幼い心を締め付けて離さなかったといいます。その半年後に祖母が亡くなってからは、年老いた祖父と2人きり。そんな生活が、9歳まで続きました。拭いきれない孤独感を慰めてくれたのは、周辺に広がる里山

の自然、そして草花や虫たち。アリや花のおしべなど小さなものを、時が経つのも忘れてじいっとみつめる日々の中で、彼の五感研ぎ澄まされていったのです。

どんな小さなものでも

みつめていると

うちゅうにつながっている



(『まど・みちお100歳の言葉』新潮社)より

今の子どもたちに必要なのは、このようなまなざしではないでしょうか。デジタル化が加速し、便利で効率的な生活にどっぷり浸かった現代だからこそ、自分の目で見、肌で感じたことを大切にしていちのち」とまっすぐに向き合ってほしい、そう思います。

さて、私の編集後記は今号が最後となります。創刊から8年。毎号楽しみに待ってくださった方、いつも感想を寄せてくださった方々に心より感謝申し上げます。長い間ご愛読いただき、本当にありがとうございました。

(Y.T)

表紙絵：河西 紀亮（満濃中学校教諭/美術部顧問）

次号予告
(6月1日発行)

特集

園・学校ウォッチング

今 子どもたちの体力は

高篠小学校・満濃南こども園